

【複合領域型（安全安心）】

高知県立大学大学院 兵庫県立大学大学院 東京医科歯科大学大学院
日本赤十字看護大学大学院 千葉大学大学院

■ 養成したい人材像

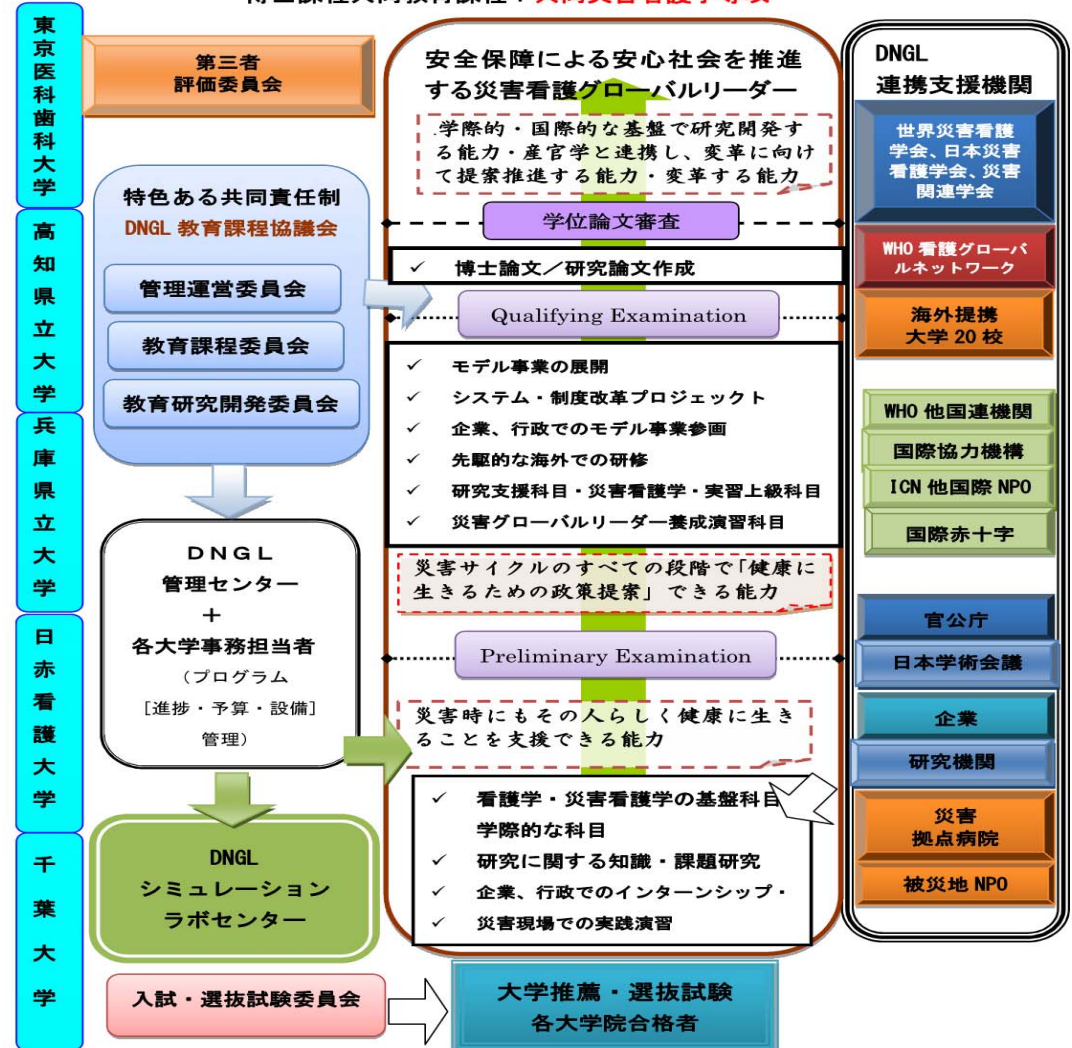
他の近接学問と相互に関連・連携しつつ、学術の理論および応用について産官学を視野に入れた研究を行い、特に災害看護学に関してその深奥を極め、人間の安全保障の進展に寄与することを目的とし、以下の4つの能力を有する人材を養成する。

- (1) 災害時にもその人らしく健康に生きることを支援できる人材。
- (2) 災害サイクルのすべての段階で「健康に生きるための政策提案」ができる人材。
- (3) 学際的・国際的な基盤で研究開発し、産官学と連携し、変革に向けて提案推進できる人材。
- (4) 人々の命と生活を守る看護力を基盤に、先見性、独創性を持って災害サイクルにおける「人間の安全保障」の実現に、グローバルに貢献できる人材。

■ プログラムの特色

- ① 国公立5大学院で研究・指導する共同教育課程
- ② 各大学の入試を受けた幅広い候補生からの選抜試験
- ③ 5大学長の強力なリーダーシップと「災害看護グローバルリーダー(DNGL)養成プログラム管理センター」での一元運営管理
- ④ 未曾有の災害に備えた「災害看護シミュレーションラボ」
- ⑤ 災害関連病院・現場での実習
- ⑥ 国内外連携大学、5大学の多彩な学部からの科目履修
- ⑦ 産官学減災モデルの中でNeeds& Seedsを汲んだ有機的な教育
- ⑧ キャリアパスに繋がるモデル事業やインターンシップの実施(例: 国際公務員、行政職員、企業社員として)
- ⑨ 多面的かつ一貫性のある遠隔指導・支援システム
- ⑩ 大学を越えた複数教員による研究指導と学位論文審査

〈災害看護グローバルリーダー（DNGL）養成プログラム〉
博士課程共同教育課程：共同災害看護学専攻



平成24年度

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [採択時公表]

機関名	高知県立大学		機関番号	26401
1. 全体責任者 (学長)	<small>※ 共同申請のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。</small> (みなみひろこ) (きよはらまさよし) (ふりがな) 氏名・職名 <u>南 裕子(高知県立大学学長)</u> ・清原正義(兵庫県立大学学長) (さいとうやすし) (おおやまたかし) 齋藤 康(千葉大学学長)・大山 喬史(東京医科歯科大学学長) (たかださなえ) 高田早苗(日本赤十字看護大学学長)、			
2. プログラム責任者	(ふりがな) 氏名・職名	(のじまさゆみ) 野嶋佐由美(高知県立大学大学院健康生活科学研究科・看護学専攻・副学長)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) 氏名・職名	(やまだ さとる) 山田 覚(高知県立大学大学院健康生活科学研究科・看護学専攻・教授)		
4. 申請類型	M <複合領域型(安全安心)>			
5.	プログラム名称	災害看護グローバルリーダー養成プログラム		
	英語名称	Disaster Nursing Global Leader Degree Program		
	副題	人間の安全保障の実現を目指す		
6. 授与する博士学位分野・名称	博士(看護学) 付記する名称: Disaster Nursing Global Leader (DNGL)			
7. 主要分科	(① 看護学) (② 社会・安全システム科学) (③ 社会医学)			※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入
8. 主要細目	(①) (②) (③)			※ オナーワシ型は太枠に主要な細目を記入
	基礎看護学、自然災害科学、公衆衛生学・健康科学			
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	共同災害看護学専攻(平成26年4月1日開設) 高知県立大学大学院健康生活科学研究科看護学専攻・看護学研究科看護学専攻、兵庫県立大学大学院看護学研究科看護学専攻、東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科総合保健看護学専攻、千葉大学大学院看護学研究科看護学専攻、日本赤十字看護大学大学院看護学研究科看護学専攻			
10. 連合大学院又は共同教育課程による申請(構想による申請も含む)の場合、その別 ※ 該当する場合には○を記入				
連合大学院		共同教育課程		○
11. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)				

(機関名:高知県立大学 申請類型:複合領域型(安全安心) プログラム名称:災害看護グローバルリーダー養成プログラム)

15. プログラム担当者一覧

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成25年度における役割)
(プログラム責任者) 野嶋 佐由美	ノジマ サユミ	61	高知県立大学大学院健康生活科学研究科・看護学専攻・副学長	看護学博士(看護学)	プログラム責任者
(プログラムコーディネーター) 山田 覚	ヤマダ サトル	54	高知県立大学大学院健康生活科学研究科・看護学専攻・教授	人間工学博士(工学)	プログラムコーディネーター
山本 あい子	ヤマモト アイコ	59	兵庫県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	看護学博士(看護学)	共同実機関所属者、ラボセンター長としてシミュレーション教育プログラム開発と実施、災害科目担当
片田 範子	カタタ ノリコ	61	兵庫県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・研究科長・学部長	看護学看護学博士	共同実機関所属者 兵庫県立大学院責任者：教育評価と質管理；教育分担：看護理論・災害倫理
内布 敦子	ウチヌノ アツコ	57	兵庫県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	看護学博士(人間科学)	共同実機関所属者 教育分担：災害学際探求
坂下 玲子	サカタ レイコ	50	兵庫県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	看護学保健学博士	共同実機関所属者 教育分担：災害看護研究法
工藤 美子	クドウ ミコ	49	兵庫県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	看護学博士(看護学)	共同実機関所属者 教育分担：災害要援護者(女性)の支援
増野 園恵	マシノ ソノエ	45	兵庫県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	看護学修士(看護学)	共同実機関所属者 教育分担：災害看護教育およびシミュレーション教育
神崎 初美	カンザキ ハツミ	46	兵庫県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	看護学看護学博士	共同実機関所属者 教育分担：被災地域住民の看護・減災教育
井上 智子	イノウエ トモコ	57	東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・総合保健看護学専攻・教授・研究科長	看護学博士(保健学)	共同実機関所属者 東京医科歯科大学大学院責任者：教育評価と質の管理
佐々木 明子	ササキ アキコ	56	東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・総合保健看護学専攻・教授	看護学博士(医学)	共同実機関所属者 教育分担：看護国際人養成、災害・地域看護学
丸 光恵	マル ミツエ	47	東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・総合保健看護学専攻・教授	看護学博士(看護学)	共同実機関所属者 教育分担：看護国際人養成、被災児とその家族の支援
佐々木 吉子	ササキ ヨシコ	44	東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・総合保健看護学専攻・准教授	看護学博士(看護学)	共同実機関所属者 教育分担：発災期の支援、クリティカルケア
深堀 浩樹	フカホリ ヒロキ	36	東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・総合保健看護学専攻・准教授	看護学博士(保健学)	共同実機関所属者 教育分担：看護政策・産官学にわたる人材養成
正木 治恵	マサキ ハルエ	52	千葉大学大学院看護学研究科・看護学専攻・研究科長・学部長	看護学博士(保健学)	共同実機関所属者 千葉大学大学院責任者：教育評価と質の管理
宮崎 美砂子	ミヤザキ ミサコ	52	千葉大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	看護学博士(看護学)	共同実機関所属者 教育分担：地域診断、支援の組織化・体制づくり、専門職連携(IPE/IPW)
和住 淑子	ワズミ ヨシコ	46	千葉大学大学院看護学研究科・看護システム管理学専攻・教授	看護学博士(看護学)	共同実機関所属者 教育分担：看護行政・政策、災害支援人材育成
近藤 昭彦	コンドウ アキヒコ	54	千葉大学環境リモートセンシング研究センター・教授	理学博士(理学)	共同実機関所属者 教育担当：災害地理学、災害履歴に関する教育
岩崎 寛	イワサキ ユウカ	43	千葉大学大学院園芸学研究科・環境園芸学専攻・准教授	園芸学博士(農学)	共同実機関所属者 教育担当：被災者への心のケア・復興期の地域づくりと園芸療法アプローチ
高田 早苗	タカタ サナエ	63	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科・看護学専攻・学長	看護学博士(看護学)	共同実機関所属者 日本赤十字看護大学大学院プログラム責任者
筒井 真優美	ツツイ マユミ	62	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科・看護学専攻・研究科長	看護学博士(看護学)	共同実機関所属者 教育分担：災害と小児看護ケア
小原 真理子	オハラ マリコ	63	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	看護学博士(学術)	共同実機関所属者 教育分担：災害看護学
東浦 洋	ヒガシウラ ヒロシ	67	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	国際・災害看護学修士(政治学)	共同実機関所属者 教育分担：災害と国際活動
福井 小紀子	フカイ サキコ	42	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	看護学博士(保健学)	共同実機関所属者 教育分担：被災者ニーズ・支援のニーズ
中野 綾美	ナカノ アヤミ	53	高知県立大学大学院健康生活科学研究科・看護学専攻・学部長	看護学博士(看護学)	高知県立大学大学院プログラム責任者

(機関名:高知県立大学 申請類型:複合領域型(安全安心) プログラム名称:災害看護グローバルリーダー養成プログラム)

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成25年度における役割)
藤田 佐和	フジタ サワ	52	高知県立大学大学院健康生活科学研究科・看護学専攻・教授	看護学 博士(看護学)	教育分担：災害サイクルにおける脆弱性を有する人々への看護
竹崎 久美子	タケザキ キミコ	51	高知県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	看護学 博士(看護学)	教育分担：災害サイクルにおける脆弱性を有する人々への看護
大村 誠	オムラ マコト	53	高知県立大学大学院健康生活科学研究科・生活科学専攻・教授	理学 博士(理学)	教育分担：地球科学にもとづく防災と看護
池田 光徳	イケダ ミツリ	53	高知県立大学大学院健康生活科学研究科・看護学専攻・教授	医学 医学博士	教育分担：災害が人体の及ぼす影響
長澤 紀美子	ナガサキ キミコ	49	高知県立大学社会福祉学部人間生活学研究科・社会福祉学専攻・教授	社会福祉学 博士(学術)	教育分担：災害と国際社会福祉に関する知識
神原 咲子	カンハラ サキコ	34	高知県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・特任准教授	看護学 博士(医学)	教育分担：災害看護学と国際看護学の教育

(機関名:高知県立大学 申請類型:複合領域型(安全安心) プログラム名称:災害看護グローバルリーダー養成プログラム)

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

本プログラムの概要

「博士課程共同教育課程：共同災害看護学専攻」は、参画する5大学院がそれぞれ蓄積してきた資源を共有し、我が国で求められている災害看護に関する多くの課題に的確に対応し解決できる、学際的国際的指導力を発揮する世界的リーダーを養成し、特に災害に関して産官学と協働して、人々の健康社会構築と安全・安心・自立に寄与することを目的としている。

我が国の看護系大学院は、平成23年4月に136校となり、医科大学、薬科大学を遙かに凌ぐ数となり、看護職は産（医療施設、在宅、企業・学校等）、官（厚生労働・文部科学行政等）、学（教育・研究者育成等）と多岐にわたって活動している。災害看護教育は1995年阪神淡路大震災を契機に、学部や大学院で開始された。また卒後医療施設に勤務する看護職は災害時に医療救護班等で活動してきた。しかし、昨年3月11日に発生した東日本大震災は、被害規模や広域性、原発事故という複雑性から、従来の枠組みや方式では十分な支援を提供しえない限界を明らかにした。

地球環境の変化に伴い激化し増加する自然災害・テロ攻撃を含む人為災害、そして新たな感染症の流行等の予期せぬ災害や不測の事態に備えて、人々の生命と健康危機へ対応する高度看護実践職の育成と新たな支援枠組みを提唱し、活動を統括する能力を備える災害看護グローバルリーダーの育成が急務と考える。

そこで看護学大学院教育の牽引的立場にある千葉大学および東京医科歯科大学、我が国の災害看護学の構築と発展に寄与した兵庫県立大学と高知県立大学、災害時の対応について実践を蓄積してきた日本赤十字看護大学の5大学院が協同して、「災害看護グローバルリーダー(Disaster Nursing Global Leader: DNGL)養成プログラム」を策定する。

プログラムの全体責任者は、災害看護拠点の形成(21世紀COE)を始めとして、我が国の災害看護学の基盤を構築した実績を持つ。さらに共同校の大学院教育改革プログラムの実績なども活かして、既成の制度やシステムを変革することのできるリーダー養成を目指す。運営は、5大学院の共同利用施設として「災害看護グローバルリーダー(DNGL)養成プログラム管理センター」を設置し、その下に「災害看護シミュレーションラボ」等を置く。これらのもとで、①各大学の候補院生に対する選抜試験、②開発された履修プログラム適用(留学制度、ラボの活用)、③インターンシップの実施(例:WHO職員、政治家、行政職員、企業社員として)、④5大学院共同体制による「Qualifying examination」の実施、⑤博士論文の一貫としてモデル事業やインターンシップの成果判定、⑥5大学院共同体制による研究指導体制、⑦5大学共同体制による「学位論文審査部会」による学位授与の決定、またプログラム修了後も⑧産官学への共同モデル事業案の提案・実践と評価などを実施する。

プログラムの特色

本プログラムの特徴は、5大学院の蓄積してきた資源を共有し、各大学院研究科に共同災害看護学専攻という共同教育課程を設置し、「災害看護グローバルリーダー(DNGL)養成プログラム」を策定し、共同責任体制で一貫した教育を行いつつ、各大学院はそれぞれの特色をさらに強化していくこと、災害看護学とともにサブスペシャリティとして臨床領域、管理領域、産業領域、行政領域で災害看護学の浸透を推進すること、国内外とのインターンシップ実施やモデル事業提案を義務づけることである。

プログラムの優位性

災害対応方略の開発は、国内外において緊急課題となっている。生産人口の70人に一人、女性労働者の20人に一人は看護職である背景を踏まえて「人間による世界最大の社会保障集団」としての自覚のもと、産官学に渡るグローバルリーダーを養成する。かつ共同教育課程という新たな組織構造により連鎖的な変革へとつなげうる、現在の我が国に求められている優先性の高い事業である。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

〈災害看護グローバルリーダー (DNGL) 養成プログラム〉
 博士課程共同教育課程：共同災害看護学専攻

